

令和 元 年度建築士の日記念事業

第40回

石川建築賞表彰式

■ 日時: 令和 元 年7月15日 (月・祝) 受付 15:30 開始 16:00

■ 場所: ANAホリデー・イン金沢スカイ

18階 トップオブカナザワ

(金沢市武蔵町15番1号 TEL 076-233-2233)

■ 表彰式 (16:00~17:30)

- 1) 開催挨拶 (一社)石川県建築士会会長 照田 繁隆
- 2) 祝 辞
- 3) 経過報告 事業委員会
- 4) 講評講演会 審査委員長 熊澤 栄二 (石川工業高等専門学校 教授)
(CPD1単位 予定)
- 5) 表 彰

優秀賞 (一般建築)	野々市市文化交流拠点施設 学びの杜ののいち カレード
優秀賞 (一般建築)	志賀町立志賀小学校
優秀賞 (住宅建築)	田上新町の家II
優秀賞 (住宅建築)	シェアハウス泰山堂
入 選 (一般建築)	NHK 金沢放送会館
入 選 (一般建築)	桜木幼稚園
入 選 (一般建築)	浄土真宗 真宗大谷派 法雲山 真教寺
入 選 (一般建築)	珠洲市立大谷小中学校
入 選 (一般建築)	三井ガーデンホテル金沢
入 選 (住宅建築)	中庭でつながる家II
入 選 (住宅建築)	3rd-house (さーど はうす)
奨励賞 (住宅建築)	金沢M邸

■ 懇親会 (17:45~19:00)

受賞者、審査員を交えて懇親会を行います。

(原則として受賞者、審査員、来賓以外の方は3,000円申し受けます。)

主催: 一般社団法人 石川県建築士会

後援: 石川県

一般社団法人 石川県建築士事務所協会

一般社団法人 石川県建設業協会

表彰式のあと参加者集合写真を撮ります

【講評文を審査員が分担・作成されました】

☆ 優秀賞

【一般建築】

作品名（建築物名称）	野々市市文化交流拠点施設 学びの杜ののいち カレード	所在地	野々市市
建築主	野々市中央まちづくり株式会社		
設計者	三上建築事務所・梓・フジタ文化交流拠点施設設計共同体		
施工者	フジタ・豊蔵組・清水建築特定共同企業体		



【 講 評 】

この複合施設は広い芝生広場の中心に配置された「公園のような図書館」をコンセプトとしており、気軽に立ち寄り、緑の中でゆっくりと憩える市民の活動拠点となっている。建築は地域図書館を中心に、その周囲に音楽・キッチン・創作のスタジオや研修室、カフェといった市民の交流・活動機能を配置する斬新な空間計画である。その計画提案が想定以上の効果を生み、予想をはるかに上回る来館者で年間を通じて賑わっている。図書館内部は高さが増える鏡面天井やブックタワー、2か所の光庭により、明るく開放的でありながらも空間機能に合わせて緩やかにスペースが文飾される工夫がなされている。児童閲覧室は、「パオ」と名付けられたおはなしコーナーを取り囲むように書架配置されており、子供たちが楽しく本と親しめる空間が演出されている。その他、構造や環境設備・省エネルギーにおいて最新の技術が採用され、これに対する精緻な施工が行われた完成度の極めて高い建築である。

(川崎寧史)

☆ 優秀賞

【一般建築】

作品名（建築物名称）	志賀町立志賀小学校	所在地	志賀町
建築主	志賀町		
設計者	株式会社 松田平田設計大阪事務所		
施工者	真柄建設株式会社		



【 講 評 】

7小学校の統合校として既存校舎を使いながら建設された大規模小学校である。審査書類では校舎の大きさ、黒瓦の屋根の強さが気になっていた。

しかし現地を訪くと市街地からは小高い場所にあるため、スカイラインが街並みとよく調和して印象的であった。校舎入り口へと誘う水平ラインが強調されたスクールバスの停留所の屋根は、伸びやかで質感も良く、全体でゆったりとしたアプローチ空間が演出されている。入口は低く伸びた瓦屋根だが、小学生の背丈から想像すると宛ら能登の田舎家のスケール感である。玄関は外観の印象と異なり、階層がずれながらも三層吹き抜けの明るく気持ちが良い空間である。教室ゾーン全体を統合する志賀ホールと緩やかに連続し、大小豊かな空間で構成されている。フィンガータイプの教室配置、生徒の成長に合わせたゾーニングなど合理的にまとめられている。内装も木質部が多い割には、抑制の効いた落ち着いた雰囲気仕上がっている。

(熊澤栄二)

☆ 優秀賞

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	田上新町の家Ⅱ	所在地	金沢市
設計者	谷重義行建築像景		
施工者	けやき住建+ライフデザイン		



【 講 評 】

斜面地に立つ20坪の土地に建てられた小さな空間は、施主の要望を最大限に実現した作品である。西側のブリッジからのアプローチの雰囲気と低く抑えられたファサードが小屋風で親しみやすく、斜面地をドライエリアとして建物と縁を切ったことにより、明るく健やかな住居という印象を与える。一方、東側の大きく切り取られた懐の高い天井を持つリビングの窓からは遠くの街を眺めながら斜面に自生する足元のススキの草原—くさはら—の感触が風になびき伝わり心地よい。東西のコントラストのあるヴォリュームのコントロールが絶妙で、それぞれの面の景観にも自然に馴染んでいる。経験豊富な設計者は、これまで比較的挑戦的な作風のものもあったが、眺望を楽しみたいという希望でこの土地を購入された施主に対して、この建築はシンプルでかつ真摯に呼応している巧みな作品であると評価された。

(道地慶子)

☆ 優秀賞

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	シェアハウス泰山堂	所在地	小松市
建築主	宮本泰山堂		
設計者	株式会社 空環境計画		
施工者	筒前工務店		



【 講 評 】

施主家族の居住スペースを存置しながら、町家の店舗関連部分をシェアハウスへ改修したプロジェクトである。良質な町家を次世代へ継承するため、ほぼ自己資金での改修を決意した施主に敬意を表したい。改修設計に当たっては、煙出しを持つ吹抜けから九谷焼の引手まで、既存の豊かな空間やディテールを最大限に活かしながら、石膏ボード張りによる壁量追加や新設壁部分の断熱化などにも取り組んでいる。小松大学の開学というタイミングで、若者向けのカジュアルな賃貸住居を街中に創出した社会的意義も大きく、こまつ町家を新たな発想で利活用していく一つの契機になるものと思われる。そのためにもシェアハウスなどの計画・運営ノウハウの蓄積とその地域的展開が望まれ、設計者等による今後の継続的サポートを期待しての入賞となった。

（佐藤考一）

☆ 入 選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	NHK 金沢放送会館	所在地	金沢市
建築主	日本放送協会 金沢放送局		
設計者	株式会社 三菱地所設計		
施工者	佐藤工業株式会社 北陸支店		

【 講 評 】

石川の新しい情報発信拠点として、城下町金沢の歴史を感じられる大手町から金沢の新しい玄関口でもある金沢駅西地区に移転、新築された放送施設である。旧会館では赤白の電波塔が印象的な放送機能を優先させた建て構えであったが、新会館では四面をパネルで被覆したシャープな造形が印象的で、パラボラアンテナがなければ電波塔とは気づかない外観とし、前面する目抜き通りである樺大通りのランドマークとしても機能している。また樺大通り対しては、金沢パークビルに倣い施設をセットバックさせ、南面には連続する軒下空間、交差点から西側には雁木を彷彿とさせるピロティ空間を積極的に提供し、まちなかの歩行による回遊性の向上に一役買っている。特に、ハートプラザと命名された西側ホール空間は、大面のガラス張りとして視覚的に通りと連続性を演出するだけでなく、汎用スタジオを開放して、まちに開かれたスタジオとして活用する開放性が高く評価された。

（熊澤栄二）

☆ 入選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	桜木幼稚園	所在地	金沢市
建築主	学校法人 桜木幼稚園		
設計者	稲荷明彦建築研究室		
施工者	株式会社 トーケン		



【 講 評 】

百余年の歴史を持つ教会付属幼稚園の改築計画である。解体された「牧師会館」にかつて備わっていた W. M.ヴォーリス設計の特徴となる階段空間をそのまま利活用する保存手法は非常に好ましいもので、また、園舎内の既存樹木を活用した園庭も時の流れが引き継がれている空気が園を心地よく包んでいる。木造外壁耐火により木質を多用することを可能にした園舎として評価されたが、愛着のある記憶を継承するべく木造園舎を実現するためには、構造やプランの制約も強くあり、特に「幼保連携型こども園」への移行に伴う用途の多様性を実現させるには非常に困難を要したと想像に難くなく、これからの園舎建築のひとつの答えであることが期待できる。また住宅街に組み込まれたような変形の敷地に対し、「教えとあそび」をバランスよく織り交ぜる遊びどころのある豊かなプランニングにより対応していることが評価できる。

(道地慶子)

☆ 入選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	浄土真宗 真宗大谷派 法雲山 真教寺	所在地	白山市
建築主	浄土真宗 真宗大谷派 法雲山 真教寺		
設計者	株式会社 中島建築事務所		
施工者	松浦建設株式会社		



【 講 評 】

商店街の一角に建つ寺院の再建である。施主の希望でもあった耐火建築物としたため現代的な外観であるが、シンメトリーな配置、本堂の大屋根、回廊の構成が寺院としての象徴性を保たせている。しかし、一方で本瓦ではなく平瓦としたことや堂内の横棧を省略した障子などは寺院特有の格の高さを踏まえると物足りない点でもあった。

以前の寺院は講堂までの階段、冬季の隙間風などの厳しい環境がお参りする高齢者の人数を年々減少させていた。再建では駐車場の完備、完全に段差のないバリアフリー化、機械空調による室内環境とすることで、足が遠のいていた高齢者が次第にお参りに戻って来るようになり、地域のコミュニティをも再建したと言える。

寺院を現代的にするか、伝統的なものにするか、議論は分かれるだろうが、地域の高齢化していく現状を見据えた施主の柔軟な発想とその思いを丁寧に実現した設計者・施工者の姿勢が評価された作品であった。

（西本雅人）

☆ 入選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	珠洲市立大谷小中学校	所在地	珠洲市
建築主	珠洲市長 泉谷満寿裕		
設計者	水野一郎 + 株式会社 金沢計画研究所		
施工者	谷口・平蔵特定建設工事共同企業体 他		



【 講 評 】

当時、県内で2例目の義務教育学校として、珠洲市立中学校の敷地内に管理・教室棟と体育館棟を新築し、既存の中学校を改修したものである。既存校舎は従来の鉄筋コンクリート造の学校建築であるが、その前面に緩やかにカーブを描いた低層の木造校舎を配置することで、学校と周囲の海沿いの木造家屋との関係に連続的な景観を創り出していることが評価された。

全校で30人という小規模な義務教育学校のメリットを活かして児童や生徒の交流、職員の交流が頻繁に行われている。その中心となる場所がメディアセンターと一体となった「だんだんホール」であり、エントランスからはこのホールを通して各教室にアクセスする構成である。既存校舎と新校舎の間に生まれた中庭はランチルームとも連続しており、地域のイベントスペースとしても活用されている。その中庭に対して新校舎がさらに開放されていた方がより活動がダイナミックに展開されるとも感じられた。

（西本雅人）

☆ 入選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	三井ガーデンホテル金沢	所在地	金沢市
建築主	三井不動産株式会社		
設計者	株式会社 竹中工務店 名古屋支店		
施工者	株式会社 竹中工務店 名古屋支店		

【 講 評 】

大都市の業務中心地区に建つアーバンホテルの系列であるが、金沢というコンセプトを内・外装に強く打ち出したホテルである。1F エントランスに小庭を設けるとともに、裏側の外部通路は路地に見立て、来観者へのさりげないおもてなしの配慮が見られる。また1F エントランス・ロビーには小庇や縦格子が設置され、町家空間の感性が醸し出されている。客室層は単調な外観とならないよう、開口の抱き部は斜めのカットが入れられ木目調の仕上げとしている。また、屋上の温泉施設には傾斜屋根の大庇がせり出し、外観のフォルムにアクセントを加えている。内装は金沢の組子、金箔、和紙などの工芸がふんだんに取り入れられたデザインとなっており、1F レストランの坪庭と相まって上品で落ち着いた内部空間が演出されている。最上階の温泉施設からは金沢の街や城址公園が一望でき、金沢中心部ならではの贅沢なサービスが提供されている。このように、金沢の文脈を十分に生かし、ハイセンスなデザインを実現した上質なホテルである。

(川崎寧史)

☆ 入選

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	中庭でつながる家Ⅱ	所在地	白山市
建築主	詠 敦		
設計者	聖建築設計事務所		
施工者	株式会社 作造		



【 講 評 】

典型的な郊外の住宅地に建つ夫婦二人のための住まいである。近くに病院もあり人通りも少なくはない。通りや周囲に対して閉じた計画は特殊解ではなく、寧ろ敷地の条件から自然と頷ける。通りに面したガレージは建物と一体で計画されており、折半屋根のエッジの効いたデザインが無表情な外観にアクセントを添え小気味良い。テーマとなっている4つの中庭は、内部性が強いこの建物に対してフレキシビリティを与え、日常生活の活動性を高めている点は高く評価された。施主もこの家に住み始めてから趣味の活動を広げ、夫人も中庭から夜空を眺めることを楽しんでいる様子である。中庭が諸室のフィルターの如く機能し、夫婦のお互いの存在を感じながら自立した生活が感じられる点は成功していると評価したい。住宅の内部は生活用品が少なく心配されたが、この住宅に住むために荷物を大幅に整理し、必要に応じて調度品を入れ替える生活スタイルだと伺い得心が行った。

(熊澤栄二)

☆ 入選

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	3rd-house（さーどはうす）	所在地	野々市市
設計者	(株)シー・プランニング建築設計事務所		
施工者	(株)シー・プランニング		



【 講 評 】

この作品は、石川県で住宅を長年作り続けた会社によるモデルルームである。住宅建築は施主の住まい方や使い勝手がそのまま作品の良さにつながることもあるが、この作品は施主がいないため、よりデザインの完成度やプロトタイプとしての在り方が問われた。

敷地は三方が住宅に囲まれる可能性が高く、前面道路に対して庭や住宅をどのように開くかが課題であった。これに対する解答はレイヤーによる構成である。

リビングを中心に前面道路までに「リビングードマー前庭ー2F テラスー外庭ー駐車場」という多層のレイヤーを重ねて、周辺に対して「見るー見られる」関係を段階的としたことが評価された。

全体的な施工精度や内部のディテールの完成度は高かったが、石川県の住宅としてプロトタイプの提案性は明快ではなかったことが惜しいところである。モデルルームとして入選されたことで、今後の住宅づくりにノウハウが活かされることを期待したい。

(西本雅人)

☆ 奨励賞

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	金沢M邸	所在地	金沢市
設計者	大場晃平建築設計事務所		
施工者	有限会社 北忠建設		



【 講 評 】

ボックスの積層という考え方で建物全体を構成しつつ、各所に生じた隙間を採光や植栽に利用して住環境を高めた木造住宅である。こうした複雑な建物を実現するために、延床面積 33 坪程度の木造にも関わらず構造計算を行い、数多くの HD 金物を配置するなどしてその設計意図を貫徹している。若手設計者のそうした挑戦的な取り組みが評価され、奨励賞の受賞となった。ただし、このようにして生み出された外観からは、必ずしも抽象的構成の妙が感じられるわけではなく、周辺環境への寄与も少ないのではないかという指摘があった。もっとも、この住宅に設けた緑が成長していけば、近隣に対する存在価値が上がっていく可能性がある。建物のそうした成長と共に、設計者自身の今後の研鑽も期待したい。

（佐藤考一）